

幸せの歌

11月3日に行われた、枝幸町自治功労者・功績者表彰式で、受賞される当農協の寺前参事



枝幸町自治功労者・功績者表彰式がおこなわれました。善行功績者として、JA宗谷南が表彰されました。組合員の関係では、長年にわたり農業委員会委員を就任されております松下正則氏が自治功労者、北海道ホルスタインナショナルショウにおいて、第4部で1等1席を獲得した小椋義則氏が特別功績者で表彰されました。また、消防団の発展に貢献された米内潤二氏も自治功績者で表彰されました。

JA宗谷南

2017NEN
12GATUGOU
～SEASON59～

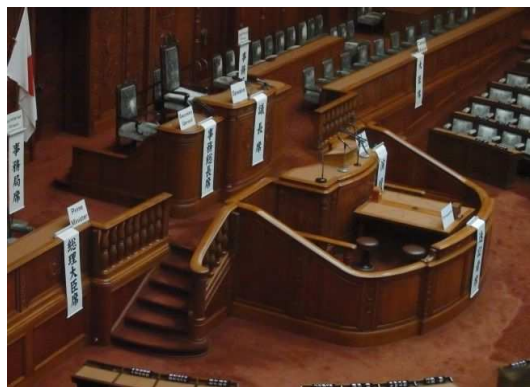
JA宗谷南役職員研修



11月6日～9日、JA宗谷南役職員15名が視察研修で、農林水産省を訪れ意見交換などを行いました。

6日は移動日で、7日は国会議事堂へ向かい参観し、環境大臣政務官兼内閣府大臣政務官である、武部代議士の政務官室を表敬訪問し、今後の宗谷農業について懇談しました。

その後農林水産省の生産局畜産課、新川畜産経営安定対策室長・古庄課長補佐、畜産振興課、春名課長補佐、牛乳乳製品課金澤課長補佐、飼料課、河内野課長補佐から、酪農に関する環境や情勢、補助事業等の説明を受けながら、意見交換を



行いました。

生乳の需給の推移では、国内生乳生産量の減少により不足傾向にあるが、28年度は、追加輸入の実施などによりバターの在庫量は増加したが、消費量が増加した事により、脱脂粉乳の在庫量は減少、29年度(8月末)の在庫量は、前年同期に比べバターは増加し、脱脂粉乳は減少。また、生乳生産量でいけば、29年度(4月～8月)前年同月に比べ飲用牛乳等は+1%、乳飲料は+4.2%、はつ酵乳は+2.4%と飲用牛乳向けは伸びているが、全体的には減少傾向にある事の報告がありました。



また、補助事業については、畜産クラスター関連事業を始め、飼料生産型酪農支援事業や後継牛確保関連事業などの更なる拡充の為予算要求していく旨の説明がありました。

次の日は、都内観光を行い東京スカイツリーなどを見学し、9日帰路につきました。





女性部

「経営・生活・

創意工夫展」



作品紹介



10月17日、毎年恒例のJA宗谷南女性部「経営・生活・創意工夫展」が開催されました。今年は天候の悪い中、来賓に普及センター江田次長・金子普及員、農協より寺前参事・西澤部長を迎えました。始めに、奥出部長の挨拶に続き、江田次長より来賓の挨拶を頂きました。

昨年に比べ出展数が少なかったのですが、陶芸やエコクラフトなど女性部の皆様の丹精のこもった作品の見学・試食を楽しんでいただきました。また、昼食には奥出部長に豚汁を作ってもらい、皆様に振る舞われました。

第66回全道JA青年部大会



平成29年12月7～8日に第66回全道JA青年部大会が札幌パークホテルで開催され、全道各地の盟友と関係者約900名が参加し、当青年部からも活動実績を発表する松田部長を始め5名が参加しました。

大会テーマ「Exciting Innovation 未来への改革」とし、1日目は、全道JA青年の主張大会・全道JA青年部活動実績発表大会・分科会・懇親会（アームレスリング大会・純農BOYオーディション）、2日目は、「動画で配信！農の魅力」・基調講演（タレント壇蜜氏、HBCアナウンサー森結有花氏を迎えて）・農村ホームステイ事例発表が行われました。活動実績発表では、JA宗谷南青年部として合併してからの、活動実績（看板製作・食育紙芝居・マスコットキャラクター作り・農村ホームステイ・結婚祝賀会）、当時の苦労話をスライドを交えながら、松田部長が熱弁しました。発表の結果は、優秀賞で、惜しくも最優秀賞に届きませんでした。



ご結婚おめでとうございます♡

10月28日、戸澤靖牧場後継者(風烈布)、慧さん夫妻の結婚披露宴が行われました。
慧さんと妻の奈々瀬さんは、お互いのやさしさと気配り上手なところに惹かれあい交際がスタートし、今年7月に入籍しました。

奈々瀬さんは、結婚前はJA北オホーツクの職員で、まさか酪農家のお嫁さんになるとは夢にも思っていなかったようですが、共通の友人を通し知り合っていくうちに、慧さんの人柄に惹かれ、結婚に至った事を明かしてくれました。今は、搾乳作業が楽しく毎日を過ごしているようです。

慧さんは、結婚を機に規模拡大を視野に入れた将来の事を真剣に考えると共に、子供も3人ほしいなど将来設計もしっかりと考えるようになったと話してくれました。



青年部酪農体験授業



酪農講習の様子



バター作りでは、皆楽しそうでした。

11月20日に、青年部として初めての試みである酪農体験授業が行われ、青年部から9名が参加しました。
音標の今牧場にて、音標小学校3、6年生を対象とした牧場見学が行われました。子供たちにとっては、初めて間近に見た牛舎や搾乳機器、親牛・仔牛に大興奮でした。
小学校に戻り、松田部長を始めとした青年部員が講師となり、酪農について講習が行われました。子供たちの酪農に対しての素朴な疑問に部員たちが丁寧に、分かりやすく答えていきました。
最後に、全校生徒で行われたバター作りでは、牛乳と生クリームをペットボトルに入れて混ぜ合わせ、熱心にペットボトルを振り、バターが出来上がると歓声をあげて喜んでいました。
青年部食育活動の一環として、行われた酪農体験授業は、子供たちから「また体験してみたい」「牛が好きになった」との感想を受け、今後につながる活動となりました。



今牧場の今尚春さん

冬季の消毒について

朝晩冷え込むようになり、日中気温が上がらなくなってきました。冬が深まるにつれ、消毒槽が雪に埋没していたり、気温が氷点下になると、消毒液が凍結してしまいます。

消毒液が凍結すると十分な消毒効果が得られないことが懸念されます。

そこで、冬場においても効果的な消毒を行い、疾病の発生を予防するため、消毒方法の工夫の事例をご紹介しますので、参考としてください。



□凍結防止剤の使用

消毒薬の凍結防止に凍結防止剤の冬用ウインドウォッシュャー液や食品添加物などに用いられるプロピレングリコールで消毒液を希釈することで、マイナス20度の環境下でも48時間以上凍結防止ができます。その他の凍結防止剤では、pH等へ影響し、消毒効果が期待できない場合があります。また、ウインドウォッシュャー液の主成分はメタノールのため引火性、揮発性があるため、同量の水と混ぜて使用してください。

□消毒槽は屋内に

屋外に踏み消毒槽を設置している場合、凍結や積雪により十分な効果が得られない場合があります。冬場は畜舎内に設置するなど、それぞれの農場の環境下で工夫し、伝染病の侵入を防ぎましょう。

□消石灰の使用

冬季の屋外に消石灰を散布し、pHの推移を測定した試験では、散布40日後でも散布時と同等の強アルカリ性を維持しているとの結果が出ています。

乾燥した場所で使用すると一週間以上効果は持続するが、濡れた後乾燥するとpHは低下し消毒効果が薄れます。そのため、除雪後散布し、定期的な追加散布で効果が持続します。

また冬場、踏み消毒槽に使用しても良いです。



踏み消毒槽は汚れた有機物が混入すると、効果が低下してしまうので、長靴を洗浄して汚れを落としてから使用します。

ブラシなどを用意してくれていると非常に助かります。

冬場でも各農場での衛生管理を徹底して、伝染病の侵入を防ぎましょう。

参考

家畜保健所 広報誌
家畜衛生情報

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的に伝えます。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

【北大との連携協定を締結】



JAグループ北海道と北海道大学は、食と農を中心とする幅広い分野の科学技術・学術及び産業の振興、教育の発展を目的とした包括連携協定を締結しました。

農業・農村を取り巻く様々な課題に対応するべく、北海道大学と共に、先端技術を活用した農業生産、道産農畜産物の価値創出、地域

社会づくりや人材育成などの面で連携・協力関係を築きながら「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現を目指します。



JA北海道信連

JAバンク北海道は、家族や周囲の人へ伝えたいことを書き残す「エンディングノート」のセミナーを初開催しました。

(10月・札幌市)

行政書士の山根氏が相続・遺言の仕組み等を解説後「エンディングノート」は遺言書を作る準備にもなる」とJAバンク版エンディングノート「いまから帳」の書き方を紹介し活用を呼びかけ、「大変参考になった」等、参加者に「好評いただきました」。



ホクレン

北海道の味覚を一堂に集めた毎年恒例秋のイベント「2017第46回ホクレン大収穫祭」を札幌三越本館で開催しました。

生産者の方の営農へのこだわりを消費者に知っていただくとともに、消費者の方がどんなことを生産者に望んでいるかを知りあう場として、交流イベント「食と農のふれあい広場」を開催。

JA道青協、JA道女性協の役員の皆様のご協力もあり、どのイベントも大盛況でした。



JA共済連北海道

10月より、地域貢献活動の一環として組合員や地域住民の皆さまにJA共済のロゴ入り反射材付き帽子5万個を配布しています。夜間でも運転者が歩行者を視認しやすくすることを目的に全道JAを通して順次配布し、交通事故未然防止と根絶を呼びかけます。

今後も組合員や地域住民の皆さまが安心・安全に暮らせるよう、地域貢献活動に取り組んでまいります。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので是非「読んでください」。



冬期間の乳質悪化対策

乳質悪化の要因は季節により異なり早めの対策が必要とされます。
乳質の悪化は経済的にも大きな影響があります。
冬期間の乳質悪化の要因については以下の様な事が考えられます。

耐熱菌

外気温が下がる秋以降に、菌数が上昇する場合、ボイラーの能力不足による洗浄不良が疑われます。洗浄水温（開始70℃、終了40℃）の確認をしてみましょう。

環境性細菌

寒さ対策の為に畜舎を閉め切ると、湿気がこもり牛床が常にぬれた状態になり細菌数が上昇します。冬期間でも適正な換気に努めましょう。



牛舎環境

牛舎内で牛を飼養するには、24時間連続して換気がされているのが理想です。夏期間の換気は暑熱対策、冬期間は除湿対策を主目的とします。牛と人にとって、換気レベルが高いことで健康や生産性が改善されます。今一度、冬の換気について考えてみましょう。

体細胞数

厳寒期になると、エネルギー要求量は増加します。また、牛体が汚れていると要求量はさらに増加します。
栄養不足は免疫力の低下を招き乳房炎を発症しやすくなります、牛体の衛生に心掛けると同時に、乳成分を確認したうえで適正な栄養管理をしましょう。

牛の月齢別の換気必要量を表1に示しました。冬の換気は夏の1/6～1/10程度で十分です。
また、成牛の1日の水分生産量は氷点下でも11kgあり、50頭牛舎では1日当たり550kgの水分が発生します(表2)。もし、冬期間に牛舎を閉め切って換気を怠ると、牛舎内は過湿状態となり飼養環境が悪化しますので、冬期間の換気は夏の1/10程度の換気量で、可能な限り牛舎の上部の空気を静かに外に排出するようにしましょう。(上部の空気は水分を含んで汚れています)

表1 乳牛1頭あたりの換気必要量		m ³ /時		
牛の種類		夏	春・秋	冬
仔牛	(0～2ヵ月)	170	85	25
育成牛	(2～12ヵ月)	221	100	34
	(12～24ヵ月)	306	136	51
成牛	(630kg)	798	289	85

表2 ホルスタイン乳牛の	
水分生産量	kg/日
気温	水分生産量
-1℃	11
10℃	14
26℃	25

表3 乳牛の年齢と乳期別の環境限界温度の上限と下限		
牛の種類	下限	上限
仔牛 (哺乳期)	13	26
育成牛 (体重50～200kg)	-5	26
乾乳期	-14	25
泌乳期 (最盛期)	-25	25



暴風雪に警戒を...

今年も雪の季節となり、毎日の作業の他除雪作業が加わり大変苦労されているかと思えます。近年、道内では、局地的な暴風雪の発生や最深積雪の更新など、厳しい気象に見舞われている状況にあり、集乳ローリーの運行に支障が生じるなどの影響がありました。

またここ数年、畜舎やD型ハウスなどの施設においては、全壊や半壊など甚大な被害が報告されています。老朽化している施設に限らず、こまめに屋根の雪下ろしを行うなど対策が必要とされますが、作業を行う際は、必ず家族などに伝えてから行う事や、できれば二人以上で作業するなど、万が一の事故を考えて行ってください。

他にも暴風雪時には、停電の恐れがありますので発電機などの停電対策も必要とされます。普段から停電で利用不能となる設備を確認し、通電の優先順位を決めておく必要があります。

今後も最新の気象情報に注意し、早めの準備、安全な作業をお願いします。



枝幸町の「ひと」「産業」「自然」に

焦点を当てたWEBサイトの紹介



ウェブサイト「枝幸の常日頃」トップページ

枝幸町を昔から支え続ける「ひと」「産業」「自然」に焦点を当て、枝幸町の魅力に深く迫り、旬な情報を発信するという目的のウェブサイトが11月17日より公開されており、第1回目の記事として宗谷南酪農ヘルパー利用組合の伊藤胡桃さんの記事が掲載されており、これからの酪農業についてどんどん取材して行き、酪農の魅力を発信していきたいとのことです。

毎週木曜日に更新されるこのことですので、是非ご覧ください。

第1回目の記事として、宗谷南酪農ヘルパー利用組合の伊藤胡桃さんの記事が掲載されています！

URL : <http://portal.esashi.jp/wp/>



←QRコードはこちらです。



編集委員

浦谷 正憲
高本 等
森川 忠幸
滝口 直也
川合 直樹
野澤 隼希
村田 太

